

# 政治学概論 II

(14) 民主主義の再起動は可能か

# リベラル・デモクラシーの行き詰まり

◆自由民主主義体制の成果＝人権・経済的な豊かさ・政治的な平等  
（経済的な「中間層」の厚みが政治的安定をもたらす）

⇒20世紀末からの世界的な環境変化による不安定化

- ①新自由主義と経済格差の拡大（中間層の没落、富の偏在と不満）
- ②グローバル化の反作用としての民族対立（宗教への志向）
- ③アイデンティティ政治と「国民国家」の衰退
- ④非民主主義国の台頭、専制政治・権威主義的政権への志向  
（自由より富と安全？ 民主主義への懐疑）

# ポピュリズム政治の危険

- 大衆迎合政治（ポピュリズム）＝「民主主義の罠」なのか？
- 投票率の低下、政治的無関心⇔危機感と熱狂にあおられやすい

※「フェイクニュース」「オルタナティブ・ファクト」  
⇒事実に基づかない政治      マスメディアへの不信（攻撃）  
（SNSの普及によって、拡散の規模とスピードが早まる）

個人的な怒りと憎悪に引きずられがちな政治⇒対立と分断  
コミュニティの衰退⇒「公共」感覚の消失へと

# 「宇宙船地球号」の希望

- 地球温暖化問題への国際的な取り組みと合意形成
  - 「将来の世代」「将来の地球」のための政治
  - 軍事的な対立＝直接の戦争を回避するための知恵
- 
- 「ビジョンハッカー」国境を超えた若者たちの連帯
  - IT技術を駆使した社会改革「経済的な豊かさよりも充実した人生」
  - 少子化の中のコミュニティ再建「少ない子供を大事に育てる」
  - ジェンダー平等政治＝暴力による問題解決を遠ざけるか

# 民主主義の再起動に必要なもの

- 「寛容な個人の確立」 = アイデンティティの内省と相互の尊重
- 「話し合いと合意形成」 = 「熟議」 結論を急がない
- 政治参加とコミュニケーション

(SNS時代こそ、生身の人間と言葉を交わす重要性)

- 「強い政治指導者」よりも「誠実な指導者」を育てる改革
- 代議制民主主義の再検討 ⇒ 選挙というシステムの点検
- 過激な言説の克服 ⇒ ナショナリズムの取り扱いに細心の注意
- 相違点を残して合意点を探る努力 (時には先送りも)

# 政治を学ぶことの意味

- 政治を読み解く「想像力と説得力」を育てる＝真の「知性」  
⇒「他者性」「他在において認識する」（丸山真男）
- 政治的な意見を持つのも重要だが「思考停止しない」こと
- 異なる意見、対立する意見をただ否定せず、背景を知る
- 事実の前では謙虚に、匿名の意見は意見ではない
- 現実の厳しさから目を背けず、「にもかかわらず」解決は可能である、というある種の「楽観」志向

# 調べ考えてみよう

- ここまでの授業を通じて、あなたが特に関心を持った政治課題、政策などを選んで、報道などを参考に、自分なりに現状と展望をまとめてみましょう。その際、SNSは使わず図書や新聞・論文のデータベースなどを使うようにしましょう